

もう一人の

「経世済民の男」

由利公正



由利公正肖像
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

『経世済民の男』は、NHKで平成27年8月～9月に放送された三部作のドラマです。明治から昭和にかけて日本を代表する経済人3名(首相や大蔵大臣等を歴任した高橋是清、阪急東宝グループを創設した小林一三、「電力王」や「電力の鬼」と呼ばれた松永安左エ門)が描かれました。

「経済」という言葉は、そもそも中国の古典の中にある「経世済民」という言葉が起源ですが、これは「世を經め、民を濟す」ことを意味しています。つまり、民を救うために

様々な公的対策を行わんとすることが「経済」なのです。

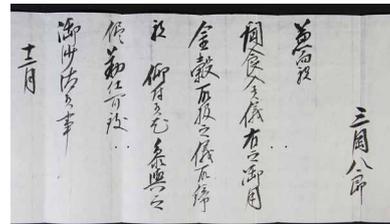
歴史家の中には、徳川幕府には、経済を政治と融合させる視点が欠けていた。貨幣経済への対応が進まず、財政が弱体化し、幕府終焉の要因の一つとなった。と指摘する人もいます。幕府は、米本位制度をとり、農民が収める税は米でした。農業重視の政策は米の生産増を実現しましたが、市中に回る米が増え、価格が下落。税収が目減りし、財政難となっていくます。また、朱子学が重んじられ、商売を卑しいとする考え方は、商業政策の実施を阻んでいま

した。

その一方で、その考え方に囚われなかった人物として、重商主義政策で幕政改革を行った幕府老中田沼意次などが挙げられますが、福井藩の由利公正も、経済を通し、政治を民のためのものにしよとした人物です。安政5(1858)年、由利は、民を富ませることこそ、武士の本分と考え、特産品の海外輸出に乗り出していきました。由利は、物産を興すには、民に楽しみをつけなければ動かない。と考え、生糸など特産品の生産から販売までを管理する物産総会所を設け、その責任者に藩内各地の農民や商人を当たらせ、利益の一部を分配したといえます。商人の一人は、武士が商売に手を出すことを痛烈に批判しましたが、由利は、商人達と一緒にゴロンと床に寝転がり、目線を合わせ、国の将来を憂いながら協力を求めたといえます。

明治新政府で由利公正は、現代の財務大臣のような立場で、初の全国通用紙幣「太政官札」の発行を押し進めるなど、国の経済の舵取りを任せられるようになります。由利がいなければ、戦費がショートし、新政府の東征が早期に終結せず、商人や農民が疲弊し、近代化の道も遠のいたかもしれません。経済の観点から日

本の近代化の礎を築いた男、由利公正。「経世済民の男」は由利公正の呼び名にふさわしいと言えるのではないのでしょうか。



金穀取扱之儀取締の沙汰書
(福井県立歴史博物館蔵)
新政府が三岡八郎(後の由利公正)を財政担当の職に任命したもの(慶応3(1867)年)

関連史料・ゆかりの地

越前和紙の里
紙の文化博物館



由利公正が発行した日本初の全国通用紙幣「太政官札」には越前和紙が使用されました。紙の文化博物館では、越前和紙の発祥の伝説や歴史について学ぶことができます。

【住所】越前市新在家町11-12
(JR 武生駅より福鉄バス南越線「和紙の里」下車徒歩5分)

参考資料等

由利公正編『子爵由利公正伝』